



湖北の豊かな食文化と温もりを後世に

農林水産省認定「地産地消の仕事人」
ひだ あやこ
肥田 文子さん(湖北町伊部)

撮影場所：湖北町伊部

「一つのことを頑張り続けてきたことが認められて嬉しい」。その道一筋に精励し、模範となる人々に授けられる「黄綬褒章」。伝統食の研究や伝承による受章は例がなかっただけに、肥田さんの受章は大きな意義と喜びをもたらしました。

湖北の食文化との出会いは、嫁ぎ先の母の「地産地消に徹した食事」。家の田畑で採った米や豆、野菜や湖魚など地のものだけを使った味に衝撃を受けます。「この美味しさは一体何なんだろう」。自給自足の精神に出逢い、そこから伝統食の奥深さを探求する長い旅が始まります。

農村女性の地位向上と食文化の交流拠点「農村婦人の家赤谷荘」に20年あまり勤務。各家庭の料理の味や祖母か

ら教わった知恵や工夫などを語り合うたびに、昔ながらの食文化が多く残っていることに驚き、その味をものにしたいという思いが強くなっていきます。知人の勧めもあり、平成4年から「滋賀の食事文化研究会」に入会。多彩なメンバーの中での学びや経験が、後に大きな自信に繋がったといいます。

20年間の学びの成果を形にした料理本「忘れぬうちに伝えたい『湖北町の伝統食・地産食』」を平成19年に自費出版。忘れかけていた味を呼び起こす本は人々の心を掴み、瞬間に完売します。しかし何よりの喜びは、周りのみんなと一緒に本の発行を喜んでくれたこと。「本の出版を通じて、各家庭に伝わる味や消えゆく食文化を繋ぐことがで

きたと思います」。

湖北の食文化を伝える第一人者となった今も、食に向き合う姿勢は誰よりも真摯。料理教室などを開く前には自宅で同じ料理を作り、味を調整して本番に臨むという徹底ぶりは、今も昔も変わりません。「何回もやらないと上手にできない」と笑いますが、そこには本当の美味しさを伝えたいという実直な思いがあります。

肥田さんの視線の先にあるさらなる目標は、これまでの集大成となる料理本の「決定版」の出版。構想を語るその目はいつまでも輝きを失いません。

先人が紡いできた素晴らしい食文化を後世に残していくため、古の味を追求する肥田さんの旅はまだまだ続きます。

Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報課（☎65-6504）まで申込みください。



元気いっぱい1歳になったね◎
たくさんあそんでのびのび大きくなってね！

伊藤
初芽ちゃん(平成30年6月生まれ)
(神照町)

荒川
朝終ちゃん(平成26年6月生まれ)右
枇依ちゃん(平成24年3月生まれ)左
(勝町)



朝終くん5歳おめでとう。これからも元気いっぱい育ててね♡素直で優しい枇依ちゃん、これからも朝終くんをよろしくね♡

まちの人口	令和元年6月1日現在	人口 118,061人	男 57,910人	女 60,151人	世帯数 46,045世帯
	令和元年5月中の異動	転入 228人	転出 245人	出生 68人	死亡 126人 婚姻 32件